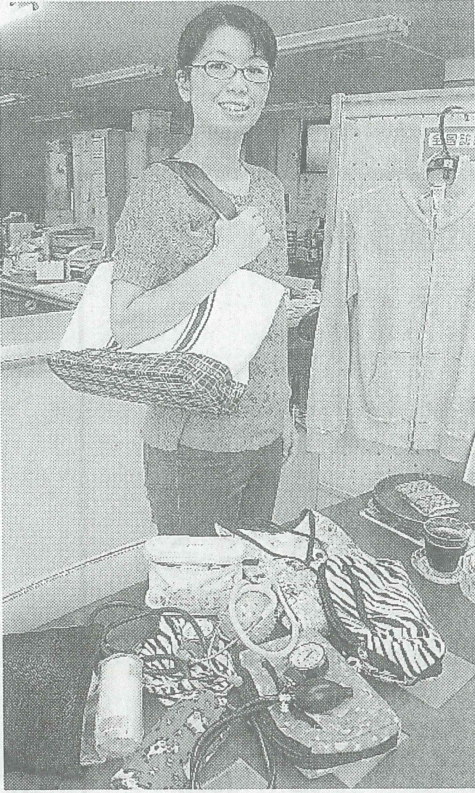


看護師の復帰後押し

藤沢「キャンナス」の活動広がる

結婚や出産を機に現場を離れた看護師に、訪問看護や通院の付き添いなど子育てと両立できる仕事を提供し、現場復帰を後押しする取り組みが注目を集めている。藤沢市のボランティアアナーズの会「キャンナス湘南」が始めた試みで、全国に広がりつつある。



白衣は着ずに看護先に出かける牧田律子さん。バッグには血圧計などが詰まっている＝藤沢市

育児可能な仕事提供

「待っててね。3時間くらいで戻るから」

看護師の牧田律子さん(37)は小学5年生の長女に声をかけ、藤沢市鶴沼橋のキャンナス事務所から車に乗り込んだ。同市や鎌倉市などの訪問先を1日数件回る。「めまぐるしいけど充実しています」と笑う。

20歳で看護師になり、がん専門病院などに6年間勤め、結婚と出産を機に専業主婦になった。2人目の子が幼稚園に入った3年前、8年ぶりに復職した。

「子育てを優先してね」と言われて週3日で始め、最近は週5日で休日出勤も普通に。それを可能にしているのが、充実した育児支援だ。託児所は事務所と同じビルにある。子どもの具合が悪い時には看護師仲間が様子を見てくれる。

訪問先では、病院勤めの頃になかなかできなかった患者との会話がある。

病院で治療の手立てが尽きて家に戻ったがん患者などが多い。緩和ケアや点滴もするが、話し相手にもなり、一緒に過ごす。最期をみとつた後は、遺体に「がんばりましたね」と声をかける。遺族と一緒に体を清め、泣き笑いになって、「住み慣れた家で最期を迎えられてよかった」とうなずき合う。

「人と向き合いたくて看護師になったことを思い出した」と牧田さんは言う。

キャンナスは1997年に発足した。仕事は脳梗塞のリハビリや認知症の介護、病気の子どもへの看護のような子育て支援まで多様だ。週1回1時間から勤務でき、様子を見ながら仕事を増やすこともできる。

キャンナスの名前は、

「出来る(Can)ことを出来る範囲で行う看護師(ナース)」という考えから取った。理念が共感を呼び、拠点は北海道から九州まで40カ所以上に広がった。震災後は全国から延べ4千人以上のメンバーが被災地に入り、避難所や一人暮らしの高齢者を回って地域医療に貢献した。

代表の菅原由美さん自身もかつて潜在看護師だった。夫の祖父の介護がキャンナス立ち上げのきっかけだ。介護に疲れた家族を休ませてあげたいという思いが原点にある。

病院では薬漬け状態で暴れないように縛られていた人が、家に戻って数日すると自力で庭を歩くほど元気になる姿を何度も見てきた。「埋もれた人材を訪問看護に集めて、住み慣れた家で暮らしたい人と、その家族を支えたい」と意気込んでいる。(古沢範英)